

令和7年2月号

# 地域おこし 協力隊通信 特大号



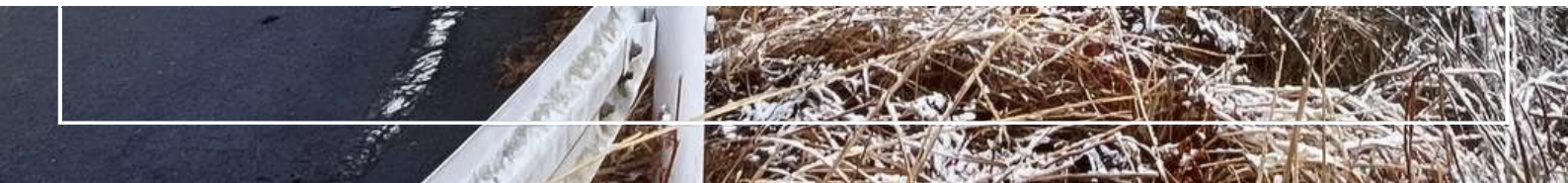
1月末時点で活動していた13人の隊員と村民の皆さんをご紹介します。

今回の地域おこし協力隊通信 特大号は、日頃から地域おこし協力隊員と関わってくださっている村の方々にもご協力いただき、制作しました。村の一員として暮らし、活動している隊員たちが、どのような関係を築いているのかを、地域の皆さんはもちろん、これから協力隊員を目指す方にも知っていただければ幸いです。ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。



丹波山村  
地域おこし協力隊

編集・取材：初田 登







一隅を照らす  
地域おこし協力隊



# 放課後学習教室

協力隊2年目  
下村 佳恵  
しもむら かえ

ラミー先生に  
聞きました！

ENJOY  
ENGLISH



## Q.佳恵さんの第一印象は？

A.佳恵先生は人付き合いが素晴らしいとすぐ分かりました。彼女は周りの人全員を快適で幸せな気分させます。教えている間、いつも笑顔を絶やさず子供たちが熱心に学びに取り組めるよう良い雰囲気を作っています。彼女は賢く、有能で、人柄がよく、信頼できる人という印象でした。

## Q.佳恵さんの活動に協力するのはなぜですか？

A.佳恵先生は非常に信頼でき、親切で、勤勉で、創造的で、理解力がありません。彼女はとても気楽で一緒に仕事をするのが楽しいです。佳恵先生への協力は最初から快く引き受けました。

## Q.佳恵さんの活動が村にどのような変化をもたらしたと思いますか？

A.佳恵先生は間違いなくこの村を良い方向に変えてくれました。彼女は教育者としてのスキルを活かして村の子供たちに英語、算数、国語のレベルを向上させるための実践的なレッスンをしています。子供たちはレッスンを重ねる度に成長し、より多くのことを学んでいます。

## Q.協力隊員や村民に一言メッセージをお願いします。

A.私は村民の皆さんに地域おこし協力隊がコミュニティーの貴重な一員であることを伝えたいです。ここでの仕事のおかげで丹波山村がより生き生きとし、より元気になっているのが分かります。彼らは私にインスピレーションを与え、コミュニティーの一員であると感じさせてくれます。彼らに感謝しています！





# グリーンリバーかめやバンガローの 守岡夫妻に聞きました



守岡 恵子さん



守岡 増さん



協力隊1年目  
大曾根 悠太  
おおそね ゆうた

## 「グリーンリバーかめやバンガローの守岡夫婦との出会い」

4月に村に来たばかりの頃、かめやバンガローの前を歩いていたところ、スロープの辺りを掃除している恵子さんと出会い、敷地内を案内してもらいました。ちょうどその時、借りられる畑を探していて、高尾地区の竹藪を切り拓いている増さんと出会いました。それから畑づくりを一緒にやるようになりました。

### ここで畑を始めようと思ったきっかけは？

増さん: 元々ここは畑だったんだけど、やる人がいなくなって竹藪になってしまったんだ。バンガローの真上の土地だから、いずれは宿泊者向けの貸農園にしたいと考えていたんだよ。そこに彼が現れて、畑づくりが一気に進んだんだよね。

### この畑を今後どのようにしたいと思いますか？

大曾根: この地域の人たちの共同農園みたいに出来たらなと思ってます。近隣に住む人たちにも気軽に関わってもらえる畑にしていきたいです。

増さん: もっと広くして、みんなが楽しめる畑になるよう、これからも頑張りたいですね。





集落支援員

# 廣瀬 浩蔵さんに聞きました

## 柴田さんのお手伝いを始めた理由は？

柴田さんが役場の裏の斜面を花畑にすると聞いて、一人で作業し始めたから、それは大変だろうと手伝い始めました。この辺りは石も多いし、真冬になると土が凍ってしまうので、その前に畑ができるようにしました。

協力隊1年目  
柴田 悦子  
しばた えっこ



## 浩蔵さんから見た「えっちゃん」の印象は？

本当にコツコツと頑張り屋さん。黙々と作業する人ですね。ここが花畑になることで、村の皆さんや来庁する人たちの癒しになればいいですね。

## 活動以外にしてほしいこと

まだ村に来て日が浅いので、よく分からないと思いますが、協力隊としての活動だけでなく、村の行事などにも参加して欲しいかな。私は文化財保存会に入っているけど、見に来てくれるだけでも嬉しいです。

## えっちゃんに一言！

3年間を有意義に使って欲しいです。そして3年後も丹波山村で暮らしてくれたら嬉しいです。今しかない時間を楽しんでほしいです。

柴田さんは、役場裏の斜面を花畑にするため廣瀬さんと一緒に作業をしています。季節に応じて花を植えることも検討中。今後は、お花の調達も含め、村内の畑を活用したいと話していました。通りからも作業している様子が良く見えるので、見かけたら応援してください。





昨年は三条の湯での業務をしながら登山ガイドステージ1の試験に挑み合格することができました。今年から登山ガイドとして本格的に業務を請け負いながら経験とスキルを蓄積しています。

協力隊2年目  
田代 健太郎  
たしろ けんたろう



木下 浩一さん



山小屋

# 三条の湯

木下 浩一さんに聞きました

けんたろうさんとの出会いは？

浩一さん：協力隊に入る前に三条に来てもらったよ。山に慣れていない人じゃ困っちゃうしね。印象は特になかったけど、山は歩ける人だから大丈夫だと思ったよ。

三条の湯での活動はどうでしたか？

よくやってくれていたよ、真面目だし。とても集中力があって熱心にやってくれたよ。集中するとすごいんだけど、そういう時こそ、視野を広くもって慌てずにやってほしいよね。

登山ガイドの資格をとって活動しはじめた彼に応援のメッセージを

念願の資格がとれて、もうたくさんガイドの仕事をしているみたいだし、さらに経験を積んで良いガイドに成長してくれたらいいね。一つのことをじっくり腰を据えて頑張ったら、きっといい結果に繋がると思うよ。



# 獲って食べて呑む

酒井 由記夫 さん

守屋 保志 さん

協力隊3年目  
伊東 真由  
いとう まゆ

猟友会 丹波山分会 ドッグチーム

## Dog Team

の皆さんに聞きました

**猟の時の伊東さんはどんな感じですか？**

守屋 保志さん:素直だよ。覚えも早いし。獲物が来たらちゃんと撃てる。今日もたくさん獲ったし、本当に上手いよね。

**鉄砲上手の秘訣は何だと思いますか？**

酒井 由記夫さん:やっぱり練習だよ。去年は射撃の県大会で2位だったんだから。日頃の練習の成果なんじゃない。射撃の姿勢も良いし、落ち着いている。

取材したこの日、伊東さんは鹿2頭と、帰り際にヤマドリの雄を獲りました。ヤマドリを撃つところをチームの人たちが見ていたそうです。

**先輩たちに褒められ照れながら伊東さんは言う**

「今年の初め頃までは、所有する鉄砲の照準の癖がつかめず、なかなか猟果に繋がりませんでした。しかし、チームの先輩たちと射撃練習をしに行き、その癖を理解し、狙いを修正したことで今季は絶好調。ただ、獲物が獲れても獲れなくても、猟師小屋に帰ってきて美味しいお酒をみんなで呑む、それが最高に楽しいです。」



伊東 真由さんは、丹波山村の林業会社 株式会社TreeLumberに所属し、日々森林保全の活動をしています。また、丹波山村の文化財保存会にも所属し、丹波山の伝統と文化を次の世代に伝える活動もしています。





地域プロジェクトマネージャー

# 岡田 政美

さんに聞きました

協力隊3年目  
常山 正吾  
つねやま しょうご



岡田 政美さん

DX推進スタッフ  
北野 伸太郎さん

週に一度、丹波山村交流促進センターで、丹波山村の観光予約サイト「とっとこ」の更新をしています。今年は予約サイトの更新だけでなく、予約者の地域や年齢などの情報を分析し、利用者のニーズに合った観光情報の発信や、イベントの実施に貢献したいと考えています。

3月中旬には、「とっとこ」会員のお客様に登山・トレッキングツアーをご案内する予定です。雲取山や三条の湯のお客様はもちろん、丹波山村に興味を持つ多くの方々に情報を届けたいと考えています。

協力隊の任期満了後は、登山ガイドとして丹波山・奥多摩地域を拠点に活動していく予定です。この地域の魅力を多くの方に知っていただき、観光客誘致に繋がりたいと考えています。

また、利用者が予約しやすいLINEボットを制作中です。少しずつ機能を充実させていきたいと思っています。



木下 修一さん

常山 正吾さんは、普段は奥秋テント村で予約受付や、キャンプ施設の清掃、維持管理をお手伝いしています。日本山岳ガイド協会のライセンスを取得し、丹波山を中心とした山岳ガイド業の起業に向けて活動を続けています。

岡田さんが、常山さんに最初に会ったときの印象は？

岡田さん: 印象っていうか、、、

# 短パンはいてた！







坂本 弘さん

協力隊3年目  
白川 裕史  
しらかわ ゆうじ

坂本 求さん

## 坂本夫妻に聞きました



弘さん手作りの干芋と干柿

灯里で白川さんと待ち合わせをして宿の細道へ。縁側からお邪魔して温かなコタツに入り、弘さん手作りの干芋や干し柿を食べながら、ほっこりした取材になりました。

白川 裕史さんは3年前の2月に丹波山村にやってきました。1年目はアットホームサポーターズで活動。2年目からは調理経験を活かしてお食事処 灯里で美味しい食事を提供し、1月末で地域おこし協力隊を卒業しました。



### 白川さんとのご関係は？

求さん: いいご近所さんだよ。雪かきでも重いもの運ぶでも手伝ってくれるし、本当によくいろいろやってくれる。スマホに買い替えた時も面倒見てもらったよ。とても上手に教えてくれてね、とても助かったよ。もし就職に困ったらうちの畑を手伝ってくれればいいさ (笑)。

仕事から帰ってきたら一杯やってくべ、みたいに誘って一緒に呑みながら話に付き合ってくれる。空き家に灯かりが付いているだけでも安心できるし、いい人だからぜひ、居続けてほしいよ。

### 卒業後にやってみたいことは？

白川: 狩猟ですかね。灯里にいた時は、土日が仕事だったので、これからは挑戦してみたいです。

弘さん: 猟は寒くてえらいじゃん。でも、白川さん山好きだからいいか。

求さん: 猟隊や文化財保存会とか、地域の集まりに参加すると、皆で呑む酒が美味しいよね。

弘さん: 白川さんとは何でも聞ける、話せるざっくばらんな関係よ。他の協力隊の人とも身近に会える機会があるといいよね。





# 宇山勇さんに聞きました



兄貴のような存在

協力隊1年目  
天城 裕太  
あまぎ ゆうた

宇山 勇さん



昨年9月に着任した天城裕太さん。

ハウスメーカー勤務の経験を経て、丹波山村の課題の一つである空き家問題の解決に向けて手探りで活動を続けています。

これからは、資格取得や課題解決だけでなく、村民の皆さんと交流を持ち、村での暮らしを楽しんでいきたいと話していました。

## 天城さんとの出会いは？

宇山さん: 私は現在育児休暇をとっているのですが、丹波山に帰って来て川沿いを子供たちと散歩している時に会いました。空き家の利活用の活動をしていることを知り、村での暮らし方をアドバイスしたのが、付き合いの始まりです。

## どんなアドバイスを受けましたか？

天城: 村に来たばかりの頃は、何をしても良いのか分からず、村を歩き回ったり、いろんな所のお手伝いをしていましたが、本来の目的の空き家活用ができるお家が見つからず悩んでいました。

宇山さんに出会って「ガンガン行けよ！」と激励を受けて積極的に取り組むようになりました。これまで他人がどんな風に自分のことを考えているとか、気にしたこともなかったので、宇山さんが鷹のような厳しい眼差しでアドバイスしてくれたことが逆に嬉しかったです。

現在は林業会社 TreeLumberに所属する宇山さん。丹波山に来る前は、オーストラリアでラフティングやスノーボードのガイドをしていましたが、子供が出来たことを機に丹波山に移住。普通なら出会うはずのなかった二人が関係を築けたのは丹波山の魅力の一つではないでしょうか。





酒井 智生さん

に聞きました

プロジェクト  
**鴨沢**



協力隊1年目  
**山本 菜々子**  
やまもと ななこ

酒井 智生さん

## 本気で取り組んでくれたのは、あなたが初めて

山本さんの活動をどう思いますか？

智生さん: これまでにも外部の人が来て、鴨沢地区の空き家の改修や利活用の話はたくさんあった。でも、話だけ、見るだけで実行されなかった。山本さんは違った。すぐに取り組んでくれた。住民の声に耳を傾け、実際に中を片付け、本気で良くしようとしている意気込みが感じられた。これからも頑張ってもらいたいね。

現在改修している場所をどんなところにしたいですか？

智生さん: 鴨沢は東京方面からの入口で、丹波山村の最初の建物だからね、来てくれる人をお迎えできる場所になれば良いんじゃないかな。

山本: まだ完全には決まってませんが、現役、OBOGを問わず協力隊員がチャレンジできる場所になればいいな、と思っています。現在、参加者及び運用方法について関係者と話し合いを進めています。建物自体の改修は、今年の春までに完成できる予定です。



山本菜々子さんは、鴨沢地区の空き家の改修を行っています。建物から残置物を運び出し、古い壁や床を剥がすなど埃にまみれながら日々奮闘しています。将来は一級建築士を目指しています。





# 丹波ちまき



丹波山村の名物を作りたい  
前夷久志さんに聞きました

かどや旅館で配膳や清掃のお手伝いをしていました。また、映像編集技術を活かして丹波山村の魅力を発信するお手伝いもしています。協力隊3年目を迎え、温めてきた事業のスタートを目指して商品開発をしています。

協力隊3年目  
前夷久志  
まええびす ひさし



## なぜちまき？

グルメ番組のプロデューサーとして仕事をしていた時に、横浜中華街や上海で食べた中華ちまきが美味しいと思ったのが一つ、そして、丹波山を訪れる登山者や釣りのお客様がテイクアウトしやすい携帯性と竹の皮を使うのでゴミにならない点も重視しました。現在の完成度は70%くらいでしょうか。いろいろな味を検討しています。

ちまきは、具材や味付けで色々な風味が出せるのが魅力です。美味しいことはもちろん、冷凍して保管できるメリットもあります。登山や釣りの携行食として丹波山村の定番グルメにしたいと考えています。将来、私一人の事業ではなく、丹波山村の家庭料理の一つとして普及して、いろんな人が作って名物になったらいいな、と思います。ちまきで丹波山をアピールしたいですね。

## どちらで販売予定ですか？

4月には販売を開始したいと思っています。現在、同じ協力隊員の山本菜々子さんが取り組んでいる鴨沢プロジェクトの場所で販売を開始したいと考えています。これから丹波山村の各地区でも試食販売を検討していますので楽しみに。





芦澤  
タカエさん  
に聞きました。

白木 里美さん

協力隊3年目  
小林 かほみ  
こばやし かほみ

芦澤 金三さん

芦澤 タカエさん

小林かほみさんは、甲武キャンプ場でお客さんの荷物運びやテントサウナの準備などの接客をしてきました。他にも保育所や、丹波っこくらぶ、社会福祉業議会でもお手伝いをしています。



薪ストーブのある暖かなお部屋でコタツに入りながらお話をお伺いしました。小林さんのお話をお伺いに来ましたが、キャンプ場の歴史から丹波山の観光の今昔まで幅広くお話を聞きました。

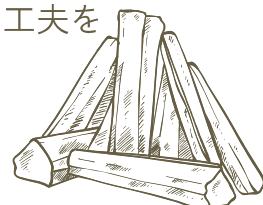
### 「こばっちゃん」の印象は？

タカエさん：この人は、お客さんとの接し方がいいよね。荷物運びからお掃除までよくやってくれるよ。私たちの知らない新しいやり方も教えてくれるし。駐車場の予約方法や誘導の仕方とか効率的な方法をこの人が考えてくれたよ。気が利いて子供に優しいから、いろんところで引っ張りだこだよね。

### キャンプ場でのお仕事はどんな感じでしたか？

小林：甲武キャンプ場は貸布団を使っているのですが、シーズン初めの布団の搬入は大変でした。天気が良ければゴミを払って屋根で干します。キャンプ場なのにお日様の香りがするお布団で寝られるのは凄いですよ。あと、スポーツクラブや塾の団体さんが多いので、200人分のおにぎりを作ったのはいい思い出です（遠い目）。でも、タカエさんの料理は美味しいので、お客さんに大好評なんです。お客さんのために施設を修繕して楽しんでもらえるよう工夫をしています。

タカエさん：私たちは何でも自分でやってきたの。若い人にそれを教えて受け継いでほしいわね。





# 旅好きの 倉持さんに 聞きました！

協力隊1年目  
倉持 正志  
くらもち まさし



ローカル線が好き

マーターミステリーの  
テストプレイにも参加

路線図が好き

倉持さんは、路線図好きが高じて日本各地を旅する根っからの旅好きです。一人旅よりも仲間と行く旅、特に自ら計画を立て、引率することで仲間が喜んでくれる姿を見るのが、何よりの喜びだそうです。持ち前の企画力と旅の経験が、今の協力隊活動の原動力になっています。

昨年の4月から一般社団法人たばやま観光推進機構で活動を始めましたが、去年はそこでの業務が忙しく、なかなか村民と触れ合う機会や、他の協力隊員との接点がありませんでした。それでも、村内のイベントや交流促進センターを訪れる人とは積極的に交流し、コミュニティーの幅を広げています。

倉持さんが昨年一番うれしかったというのが、村内の人が自分を紹介してくれた時に、「この人、丹波の人」と紹介されたこと。移住者でもなく、協力隊員でもなく「村の人」と言ってもらえたことが、とてもうれしかったそうです。

倉持さんは昨年から総務省が推認する特定地域づくり事業協同組合制度（複業協同組合）の事務局も担っています。丹波山村で暮らし、仕事をしたいと考えている人に季節や需要に応じた職場を案内し、安定した収入と地域の人材確保を促すものです。これからの倉持さんの活動に注目です！



特定地域づくり事業協同組合制度の詳細はこちらのQRコードから確認ができます



猟友会 丹波山分会

# 保猟会

の皆さんに聞きました

私、初田は、丹波山村に来てから狩猟免許を取り、狩猟グループに入り、猟期中は毎週末、猟や有害駆除を行っています。



協力隊通信の特大号の取材をしているのですが、質問よろしいですか？

船木良哲さん：おら、ええ。

初田：そう言わずに協力してください。

初田：私の第一印象はどう思いましたか？

船木さん：あれだ、西部警察、渡哲也。

木下栄和さん：褒めすぎ（笑）



私が入って来たことで変わったことはありますか？

木下さん：それは、一番は、やっぱり送り迎えだね。ありがてえ。

船木さん：そうよ、それよ！

白木孝郎さん：なんかあっても送り迎えしに来てくれるしな、気が利く。

木下さん：ほんと、俺らの会に来てくれてよかったよな〜。

船木さん：こうして楽しく呑めるのは、この人のおかげよ。

ただ、ちょっと鉄砲の腕はぶきっちいけどな（笑）

協力隊2年目

初田 登

はつた のぼる



丹波山村移住定住推進協議会に所属し、丹波山村を移住者の目線でSNSやブログでPRし、人口増につなげる活動をしています。また、協力隊通信を発行し、村内で協力隊員が活動しやすい環境作りをしていくことで、新たな協力隊員を村に誘致する一助になればと考えています。呑めそうな顔をしています、一滴もお酒は呑めない、村タクや送迎ドライバーとして活躍中。猟期中はほぼ毎週参加。保猟会の皆さんが楽しくお酒を呑めることが一番の活動かもしれません。





わたしたちの村の  
#地域おこし協力隊

令和5年3月末卒業 OB

望月 敬之

もちづきのりゆき

協力隊卒業後も丹波山村に残り、  
家庭をもって暮らし続ける人がいます

平成26年から受け入れを始めた丹波山村の地域おこし協力隊は、過去10年間一度も途絶えることなく、令和6年度も新たに5人が加わり、これまでの総採用者数は43人になりました。「人口500人の村に10人を超える地域おこし協力隊が活動している」と言うと、たいていの人が驚きます。そして、村を訪れて地域おこし協力隊の活動の様子を見た人からは、「隊員がいきいきと活動している」と言っただけです。

令和7年度から国の制度が改正され、地域おこし協力隊の活動に「地域住民と連携・協力すること」がより重視されるようになります。そんな中、今回の地域おこし協力隊通信特大号の制作にあたっては、村民の方にもご協力いただきました。丹波山村では地域おこし協力隊が地域に浸透し、活動を支えてくれる人たちがたくさんいることを見える形で残したいと思ったからです。取材にご協力いただいた方だけでなく、多くの方のご理解と協力の下で隊員の活動は成り立っていると考えています。

これからも小さな村だからこそ挑戦できる「地域おこし」に、住民の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思えます。丹波山村地域おこし協力隊を今後ともよろしく願いいたします。

令和7年2月 丹波山村地域創造課